

科目名				ドラマで学ぶ英語の世界 ～シェイクスピアから鬼滅の刃まで～				担当者		ナガ 永 ノ 野 アツシ 篤					
区 分		選択		2		単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	2 年	開講期	後期
							授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法			オフィスアワーまたは、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp へのメール												
専門的 学習成果		①	言語としての英語の全体像の概略について説明できる。												
		②	現代英語における言語におけるリスニング力を向上させる。												
		③	現代英語コミュニケーションに求められる単語、文法力を向上させる。												
		④	英語によるドラマの視聴を通じて英語圏の文化、世界観について洞察できる。												
汎用的 学習成果		(1)	英語に関する歴史・発展の知識を身に付け、社会的自立に必要な知識を修得し、実践に活かすことができる。(専門的学習成果①②③に関連)												
		(2)	英語の単語力の向上を通じて、場面に応じた単語選択を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)												
		(3)	英語の文法力の向上を通じて、場面に応じた表現の違いの認識を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)												
		(4)	英語のリスニング力の向上を通じて、シチュエーションに応じた使い分けについての理解を可能とする。(専門的学習成果①②③に関連)												
授業概要		グローバル化の進展とユビキタス社会の発展に伴い、人類共通言語の一つとしての英語の重要性はこれまでになく高まっている。簡単なオーラルコミュニケーションから難解な英語論文でさえ、AIによる自動翻訳によってある程度意味を知ることができる。しかし、異なる言語の背景となる文化的相違の理解や、我々の考え方、感性を規定する枠組みの一つである言語の性質を知るとは自らの経験によって身についていく。本授業では、ドラマ等を通じて英語という非母国語に触れ、多言語、多文化の理解を深めるものである。													
評価方法 基準等		学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準										
		専門的 学習成果	定期試験												
			レポート												
			小テスト	100	各回実施し、各回6.6%を配点する。										
		汎用的 学習成果	(1) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。 (4) は、専門的学習成果①②③で評価を行う。												
テキスト 等		著者・編集者名			書名							出版社名			
参考書 参考文献		著者・編集者名			書名							出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等				①オンラインを介した資料配布、小テスト、実力査定アンケートを行うため、インターネットに接続でき、かつ、操作が容易なスマートフォン、タブレット、ノートPCなどを持ち込んでください。 ②小テストは原則授業中に行い、集計後、速やかにフィードバックを行う。受講者全体の中に占める自身のポジションを確認し、かつ、誤った記憶や理解を正し、資格取得へ向上する姿勢を身に着けることを期待しています。 ③予習復習には、それぞれ1時間程度かけることが期待される。難易度は高くないが、繰り返しの発声練習が必要とされることが想定されるため、相応の空間を確保できる環境を整えるように準備してください。 ④紙または電子形式による辞書を携帯すること。											

授業計画			学習成果の評価	
1 回	授業内容	現代英語が成立するまで。ドラマ①視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	現代英語成歴史を俯瞰し、かつ英語ドラマ（アメリカ）を視聴し、言葉のスピード感に慣れる。		
	予習復習 の 内 容	現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。		
2 回	授業内容	現代アメリカ英語のリスニング。ドラマ②視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	英語ドラマを視聴し、言葉のイントネーションに慣れる。		
	予習復習 の 内 容	現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。		
3 回	授業内容	現代アメリカ英語のリスニング。ドラマ③視聴 「鬼滅の刃」を予定	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	英語に吹き替えられた日本のドラマを視聴し、翻訳された言語に慣れる。		
	予習復習 の 内 容	現代英語について事前課題に基づいた、単語類の理解・記憶に努める。		
4 回	授業内容	現代英語の基礎となった近代イギリス英語（発音）。ドラマ④視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語語のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
5 回	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語（単語）。ドラマ⑤視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語語のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
6 回	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語（定型詩）。ドラマ⑥視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語語のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
7 回	授業内容	現代英語の基礎となった中世イギリス英語（抑揚）。ドラマ⑦視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	英語成立の歴史と、英単語語のニュアンスの違いについて理解を深める。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語文章を暗唱できるように努める。		
8 回	授業内容	中世イギリス英語の現代アメリカへの適用。ドラマ⑧視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	イギリス英語とアメリカ英語の違いをリスニングから直感的に理解する。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英単語を理解・記憶する。		
9 回	授業内容	中世イギリス英語の現代アメリカへの融合。ドラマ⑨視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	イギリス英語とアメリカ英語の違いリスニングから直感的に理解する。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語文章の文法を理解し構造を記憶する。		
10回	授業内容	現代アメリカ英語の二者間の会話（プライベート）。ドラマ⑩視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	アメリカ英語による親密な二者間のコミュニケーションを理解する。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶する。		
11回	授業内容	現代アメリカ英語の二者間の会話（社交）。ドラマ⑪視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	アメリカ英語による二者間のコミュニケーションを理解する。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶する。		
12回	授業内容	現代アメリカ英語のスピーチ。ドラマ⑫視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	アメリカ英語によるスピーチの形式と内容を理解する。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語スピーチの理解・記憶に努める。		
13回	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑬視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを字幕なしで少し理解する。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。		
14回	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑭視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを日本語字幕なしである程度理解する。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。		
15回	授業内容	現代英語による、口頭によるコミュニケーション。ドラマ⑮視聴	事前課題に基づいた小テストと、講義後の理解度テストを実施する。	
	学習成果	ネイティブ向けに作成された英語ドラマを日本語字幕なしで、視聴できる。		
	予習復習 の 内 容	事前課題に基づいた、英語のダイアログを理解し、記憶し、暗唱する。		

科目名		簿記会計学				担当者		ナガノアツシ 永野 篤				
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1 年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	企業会計における簿記の必要性を述べることができる。										
	②	複式簿記の記帳ルールを説明できる。										
	③	財産管理ができるようになる。										
	④	財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成と経営分析ができるようになる。										
汎用的 学習成果	(1)	簿記を学ぶことにより、社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。（専門的学習成果①②③④）										
	(2)	財産管理と財務諸表の作成並びに経営分析を学ぶことにより、社会的・職業的自立に繋がる知識と技能を習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③④）										
授業概要		簿記とは、一定の法則にもとづいて、日々の取引および財産の増減変化を正確明瞭に記録・計算・整理するシステムである。その目的は企業の財政状態と経営成績を明らかにし企業経営者並びに利害関係者に有用な会計情報を提供することにある。企業会計の仕組みをできるだけやさしく解説し、簿記会計知識が身に付く講義をする。具体的にはまず簿記の成り立からはじめて、複式簿記と家計簿の違い、記帳方法（ルール）を詳しく学ぶ。次に簿記上の取引項目や決算手続きを学び、財務諸表（貸借対照表と損益計算書）を作成し分析する。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	10	「複式簿記と家計簿」について内容・根拠・独創性で評価を行う。								
		小テスト	80	10回実施し、各回10％を配点とする。1～3 回分の講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	10	授業内容へのフィードバック、疑問点の解決、貢献・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③及び④で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	登川雄太		『世界一やさしい 会計の教科書 1 年生』						ソーテック社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等				①簿記は演習が不可欠である。事前学習としてテキストをよく読んでくこと。（予習：週 1 時間程度）事後学習としては、テキスト並びに指定された範囲の演習問題を解くこと。（復習：週 3 時間程度）電卓は必ず持参すること。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い、添削して返却する。								

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	会計と株式会社について知る	疑問点の解決、論点ついでの確認を行う
	学習成果	会計、企業会計の特徴、株式会社について理解し説明できる	
	予習復習の 内 容	テキスト p10-20の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
2 回	授業内容	財務諸表の意義と構成について知る	疑問点の解決、論点ついでの確認を行う
	学習成果	財務諸表の種類と、それぞれの特徴について知る	
	予習復習の 内 容	テキスト p25-30の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
3 回	授業内容	貸借対照表とキャッシュフローの関係について知る	小テスト（1）企業会計の特徴、財務諸表の種類について確認する
	学習成果	貸借対対照表の考え方と変化の様相について説明できる	
	予習復習の 内 容	テキスト p32-50の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
4 回	授業内容	損益計算書とキャッシュフローの関係について知る	小テスト（2）貸借対照表と損益計算書の構成について確認する
	学習成果	損益計算書の考え方と貸借対照表・キャッシュフローの関係を説明できる	
	予習復習の 内 容	テキスト p52-57の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
5 回	授業内容	簿記の基本をマスターする（1）	疑問点の解決、論点ついでの確認を行う
	学習成果	簿記の考え方と、会計における取引、仕訳の簡単なしくみについて説明できる	
	予習復習の 内 容	テキスト p64-80の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
6 回	授業内容	簿記の基本をマスターする（2）	小テスト（3）現金を基本とした仕訳について確認する
	学習成果	簿記の考え方と、会計における取引、仕訳の簡単なしくみについて説明できる	
	予習復習の 内 容	テキスト p81-90の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
7 回	授業内容	利益の考え方を学ぶ（1）	小テスト（4）現金および非現金による取引の仕訳について確認する
	学習成果	会計における利益の考えかたを知る（発生主義、実現主義、期間的対応）	
	予習復習の 内 容	テキスト p92-111の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
8 回	授業内容	利益の考え方を学ぶ（2）	小テスト（5）利益計算に関する内容を確認する
	学習成果	会計における利益の考えかたを知る（減価償却、引当金、取得原価・時価原価）	
	予習復習の 内 容	テキスト p113-142の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
9 回	授業内容	実際の貸借対照表と損益計算書の読み方を知る	小テスト（6）安全性分析の内容について確認する
	学習成果	実際の貸借対照表と損益計算書から読み方について学ぶ	
	予習復習の 内 容	テキスト p144-167の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
10回	授業内容	キャッシュフロー計算書のメカニズムについて知る	小テスト（7）キャッシュフロー計算書のメカニズムについて確認する
	学習成果	利益とキャッシュ、財務 3 表の関係、間接法、営業活動による CF の意義について説明できる	
	予習復習の 内 容	テキスト p168-198の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
11回	授業内容	企業グループの連結財務諸表を学ぶ	小テスト（8）連結財務諸表における論点について確認する
	学習成果	親会社と子会社、企業集団と連結財務諸表、連結財務諸表のイメージについて学ぶ	
	予習復習の 内 容	テキスト p200-220の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
12回	授業内容	会計用語をおさえてニュースの深掘りを行う	小テスト（9）現代会計の論点について確認する
	学習成果	国際会計基準と IFRS、減損損失、のれん、税効果会計について知る	
	予習復習の 内 容	テキスト p222-250の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
13回	授業内容	投資にも役立つ企業の財務分析を行う（1）収益性	疑問点の解決、質疑応答の活発さを確認する
	学習成果	財務分析における収益性分析の種類と意味について説明できる	
	予習復習の 内 容	テキスト p252-260の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
14回	授業内容	投資にも役立つ企業の財務分析を行う（2）安全性	疑問点の解決、質疑応答の活発さを確認する
	学習成果	財務分析における安全性分析の種類と意味について説明できる	
	予習復習の 内 容	テキスト p262-264の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
15回	授業内容	企業分析を通じて会計の基本をマスターする	小テスト（10）授業を通じて学んだ会計に関する全般的概念・用語の定着について確認する
	学習成果	財務分析における安全性分析の種類と意味について説明できる	
	予習復習の 内 容	テキスト p265-269の予習を行い、復習によって全体的内容の理解を深め用語の記憶を確実なものにさせる	

科目名		日本語と英語で学ぶ簿記会計の原理				担当者		ナガノ アツシ 永 野 篤				
区 分	選択	2	単位	授業回数	8	回	授業 形態	講義	学年	2 年	開講期	後期集中
				授業時間数	15	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	企業活動における簿記・会計の意義について述べることができる。										
	②	財務諸表のメカニズムについて日本語と英語の概念を通じて複合的に理解し説明できる。										
	③	現代社会において国際社会に求められる会計知識について英語を通じての最低限の知見を得ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	日本語と英語を通じて簿記・会計を学ぶことにより、国際的・社会的・職業的自立に必要な知識と技能を習得し活用できる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	日本語と英語を通じて簿記・会計を学ぶことにより、国際的な文化の違い、現象理解の相違を知り、国際人・職業人としての実践につなげることができる。(専門的学習成果③)										
授業概要		近代において、簿記・会計は西洋社会から輸入された仕組み、概念である。そのため、用語の日本語訳を通じてそのメカニズムを日本語ネイティブが直観的理解をすることには困難が生じている。本授業は、こうした課題を克服するために日本人にも比較的馴染みやすい英単語・概念を用いて、簿記・会計のしくみについて深い理解を行うことを目指している。簿記上の取引における簡単な仕分けから、貸借対照表、損益計算書、そして国際基準に基づいて作成された実際の財務諸表を検討することで、今日的な企業会計の実相についての学びを深める。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	90	6 回実施し、各回15％を配点とする。1 ～ 2 回分の講義内容の理解の程度を評価する。								
		平常点	10	授業内容へのフィードバック、疑問点の解決、貢献・意欲を評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①～③で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	大津広一、我妻ゆみ		『会計プロフェッショナルの英単語100 世界の一流企業はこう語る』							ダイヤモンド社		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等				①簿記検定Ⅰまたは簿記会計学の受講および授業内容への適切な理解があること、或いは日商簿記3級合格レベル知見を持っていることを前提に授業は行われる。(予習：週1時間程度) 事後学習としては、テキスト並びに指定された範囲の演習問題を解くこと。(復習：週3時間程度) 電卓は必ず持参すること。 ②提出されたレポートは全体的な講評を行い、添削して返却する。								

授業計画			学習成果の評価
1 回	授業内容	英語で会計を学ぶ意義を知る	疑問点の解決、論点についての確認を行う
	学習成果	借方、貸方、会計の 5 つの要素について英語で理解し説明できる	
	予習復習の 内 容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
2 回	授業内容	貸借対照表（バランスシート）の借方の会計英単語を学ぶ	
	学習成果	流動資産および固定資産にかかる用語について理解を深める	
	予習復習の 内 容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
3 回	授業内容	貸借対照表（バランスシート）の貸方の会計英単語を学ぶ	
	学習成果	流動負債、固定負債、純資産にかかる用語について理解を深める	
	予習復習の 内 容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
4 回	授業内容	損益計算書（プロフィット&ロス・ステイトメント）の会計英単語を学ぶ（1）	
	学習成果	売上、費用、利益にかかる基本的用語について理解を深める	小テスト（1）貸借対照表の用語について確認する
	予習復習の 内 容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
5 回	授業内容	損益計算書（プロフィット&ロス・ステイトメント）の会計英単語を学ぶ（2）	小テスト（2）損益計算書の用語について確認する
	学習成果	持分法による投資利益・損失、構造改革費用、減損損失な発展的内容について理解を深める	
	予習復習の 内 容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	小テスト（3）紛らわしいことばについて再確認する
6 回	授業内容	紛らわしいことばを整理する	
	学習成果	Sales, Revenue, Profit, Profit, Income, Margin, Earnings, Return, Cost, Expense, Expenditure, Assets, Equity について整理する	
	予習復習の 内 容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	小テスト（4）数字にまつわる表現について再確認する
7 回	授業内容	数字にまつわる表現を整理する	
	学習成果	長い数値の読み方、小数点読み方、分数の読み方、加減乗除の読み方、四捨五入の読み方、累乗の読み方、単利 vs 複利、プラス、マイナスの正しい表現について整理する	
	予習復習の 内 容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	小テスト（5）授業の総合的内容を確認する
8 回	授業内容	企業活動における重要な表現と決算書類に関する知識を学ぶ	
	学習成果	ステークホルダー、主要な業界、管理会計、財務諸表の各種呼び方、単体・連結、決算期のチェック、インターネットによる決算書類の入手方法について学ぶ	
	予習復習の 内 容	クラスルーム等を通じて予め指示されたテキストに範囲の予習を行い、復習によって内容の理解を深め用語を記憶させる	
9 回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の 内 容		
10回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の 内 容		
11回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の 内 容		
12回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の 内 容		
13回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の 内 容		
14回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の 内 容		
15回	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の 内 容		

科目名		新聞を読む				担当者		川 辺 博					
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1 年	開講期	後期	
				授業時間数	30								時間
教員との連絡方法 質問等の受付方法		kawabe.hiroshi@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で連絡する。											
専門的 学習成果	①	新聞を読んで活用するための技術を身につける。											
	②	時事問題に関心をもち、自分自身に関連づけてとらえ、自分なりの考えが発表できる。											
	③	「ニュース時事能力検定」受検を目指した取り組みができる。											
汎用的 学習成果	(1)	現代社会の課題を認識することで、業務においても私生活においても自立した社会人としての役割を果たすことができる。(専門的学習成果の①②③に関連)											
	(2)	現代社会の課題について深く考察し、立場の異なる相手とも議論できる。(専門的学習成果の②に関連)											
	(3)	現代社会の課題に取り組んで地域社会の活動に貢献できる。(専門的学習成果の②に関連)											
授業概要		新聞は世界を知るための良質のメディアだが、読むには慣れとコツが必要である。この授業では各自が毎週スクラップ・ブックを作り、記事で取り上げられているできごとについて全体で討議することを通して、社会のしくみと現状、問題点についての理解を深める。また新聞記事のようないわゆる「硬い文章」を読むのに慣れ、さらには自分でも書けるように練習する。「ニュース時事能力検定」の参考書・問題集に取り組み、受検を促す。「新聞は難しいから読まない」という人ほど、むしろ歓迎する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		提出物	50	授業ごとに指定されたテーマにもとづいてスクラップ・ブックを作り、期末に提出する。									
		小テスト	20	ニュース検定や講義内容についての小テストを実施する。									
		平常点	30	授業時間中におこなうスクラップの発表の内容を評価する。									
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③によって評価をおこなう。 (2) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。 (3) は専門的学習成果②によって評価をおこなう。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名			
	日本ニュース時事能力 検定協会（監修）		『2024年度版ニュース検定公式テキスト&問題集 3・4級対応』							毎日新聞出版			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名			
	池上彰		『池上彰の新聞勉強術』							文春文庫			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等			①各自で新聞を用意し、スクラップ・ブックを作成すること。作る際の詳細な注意点は、初回のガイダンスで指示する。授業日以外でも新聞やテレビのニュース番組、ネットのニュース・サイトに親しむことが必要である（毎日数十分程度、1週間で4時間程度）。 ②小テストや提出物は返却し、その際に解説をおこなう。										

授業計画			学習成果の評価	
1 回	授業内容	ガイダンス、スクラップ・ブックの作り方と「ニュース時事能力検定」について	「ニュース検定」の例題への取り組みによって評価	
	学習成果	新聞というメディアの特性を理解し、スクラップ・ブックを作成する準備ができる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。		
2 回	授業内容	新聞の種類	スクラップの発表によって評価	
	学習成果	流通範囲や扱う内容に応じて新聞に多くの種類があることを説明できる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。ニュース・サイトを閲覧する。		
3 回	授業内容	アナログ・メディア（新聞紙）とデジタル・メディア（ニュース・サイト）の特徴	スクラップの発表によって評価	
	学習成果	アナログとデジタルの双方の長所と短所を対比して説明できる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。政治分野の話題についてまとめておく。		
4 回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（1）政治	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価	
	学習成果	政治分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。政治分野の話題を復習する。		
5 回	授業内容	一日分の新聞の構成	スクラップの発表によって評価	
	学習成果	新聞の「面」ごとの特色を説明できる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。見出しの特徴を調べておく。		
6 回	授業内容	新聞記事の構造、見出しの役割	スクラップの発表によって評価	
	学習成果	新聞記事の構造や見出しの役割を説明できる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。経済分野の話題についてまとめておく。		
7 回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（2）経済	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価	
	学習成果	経済分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。経済分野の話題を復習する。		
8 回	授業内容	写真、レイアウト、文字の役割	スクラップの発表によって評価	
	学習成果	報道写真に込められた意図に留意しながら「読み解く」ことができる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。暮らしにかかわる話題についてまとめておく。		
9 回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（3）暮らし	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価	
	学習成果	暮らしにかかわる知識を整理し、問題点について論じることができる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。新聞広告の特徴を調べておく。		
10回	授業内容	新聞広告の特徴	スクラップの発表によって評価	
	学習成果	新聞という物理メディアならではの広告の表現手法の特徴を説明できる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題についてまとめておく。		
11回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（4）社会・環境	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価	
	学習成果	社会・環境の知識を整理し、問題点について論じることができる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。社会・環境分野の話題を復習する。		
12回	授業内容	新聞を読み比べる（1）一般紙どうしの読み比べ	スクラップの発表によって評価	
	学習成果	複数紙の読み比べをとおして、報道と世論形成のかかわりを説明できる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。国際分野の話題についてまとめておく。		
13回	授業内容	「ニュース検定」の問題に取り組む（5）国際	スクラップの発表と「ニュース検定」小テストによって評価	
	学習成果	国際分野の知識を整理し、問題点について論じることができる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。国際分野の話題を復習する。		
14回	授業内容	新聞を読み比べる（2）「日本経済新聞」を読む	スクラップの発表によって評価	
	学習成果	「日本経済新聞」の特徴を理解し、活用できる。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。新聞の文体の特徴を調べておく。		
15回	授業内容	新聞記事の文体をまねて記事を書く	スクラップの発表によって評価	
	学習成果	新聞記事風の文章が自分で書ける。		
	予習復習の 内 容	スクラップを作成する。授業全体を振り返り、まとめる。		

科目名		ファッションデザイン				担当者		カナザワチキ晶					
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	1 年	開講期	前期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		2 階204教室（洋裁室）の隣りの研究室にいらして下さい。											
専門的 学習成果	①	ファッションデザインの歴史・過程を知り、各年代のデザイナーを知ることができる。											
	②	洋服のデザイン（シルエット・ディテール）の名称を知ることができる。											
	③	新たなデザインの発想をする力を身に付け、提案することができる。											
	④	フォーマルの場に着用する正しい服装を知ることができる。											
汎用的 学習成果	(1)	資格取得に向けたフォーマルの場に着用する服装の学習を通して、社会的・職業的に自立に繋がる知識を習得し活用できる。（専門的学習成果④に関連）											
	(2)	ファッションのデザインを発想し、デザイン画に表現することを通して、自己表現、他者理解ができる。（専門的学習成果②③に関連）											
	(3)	ファッションデザインの種類や名称を学習することを通して、習得した知識や技能を活用し課題解決に向け行動できる。（専門的学習成果①②③④に関連）											
授業概要		衣服は人間が直接身につけるものであるため、非常に関心が高く、ファッションの個性化が求められる。基礎となるデザインを統計的に習得し、写真やイラストにより視覚的に理解することを目的とした。ファッションデザインの基礎的な知識や豊かで美的なデザイン発想力が養われるよう、デザインの発想法や美的形式原理などについて学ぶ。 また、フォーマルスペシャリスト検定準2級の合格を目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	10	レポート課題を実施し、講義内容の理解の程度を評価する。									
		小テスト	10	授業内容の理解の程度を評価する。									
		筆記試験	70	第15回目の授業後半に筆記試験形式で行い、全15回分の講義内容の理解について評価を行う。									
		平常点	10	授業の態度・関心・意欲を評価する。									
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果④で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②及び③で評価を行う。 (3) は専門的学習成果①～④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
	日本フォーマル協会		『フォーマルウェア・ルールブック』						日本フォーマル協会				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
	飯塚弘子・万江八重子 共著		『服飾デザイン論』						文化出版局				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等				①日常的にファッション誌の閲覧やファッションの流行などを意識し（計30時間）、講義内容の理解を深める。また、レポート・筆記試験の準備を行い（計30時間）、理解の定着に努めること。 ②レポートは返却し、解説を行う。									

授業計画			学習成果の評価	
1 回	授業内容	ガイダンス	全15回の内容を理解できたか 資格の内容を理解できたか	
	学習成果	取得できる資格について理解し、全15回の授業内容を知ることができる。		
	予習復習の 内 容	ファッションデザインに関心を持ち、ファッション誌など積極的に読むようにすること。		
2 回	授業内容	デザインの意義	レポート（デザイン画制作）	
	学習成果	デザインの語彙や歴史、創造性などについて理解し、説明できる。		
	予習復習の 内 容	デザインについて理解し、発想ができるようにすること。		
3 回	授業内容	デザインの分野	質問を通してデザインの分野を理解できたか	
	学習成果	ファッションおよび他業界におけるデザインの分野を理解し、説明できる。		
	予習復習の 内 容	デザインを利用する業界を理解しておくこと。		
4 回	授業内容	デザインの過程	質問を通してデザインの過程が理解できたか	
	学習成果	デザインが生み出され、生産され、製品になっていく工程を理解し、説明できる。		
	予習復習の 内 容	一般的なデザインの過程とファッションの工場生産の流れを理解しておくこと。		
5 回	授業内容	服装の意味	質問を通して服装の意味が理解できたか	
	学習成果	服装の類語および服の役割について理解し、説明できる。		
	予習復習の 内 容	専門的な言葉の使い分けができ、服の役割を理解し、説明できるようにしておくこと。		
6 回	授業内容	服装の美	質問を通して服装の美が理解できたか	
	学習成果	デザイナーおよび服装の美しさについて、その条件を理解し、説明できる。		
	予習復習の 内 容	服装の美しさとは何か、内容美と形式美の違いについて理解しておくこと。		
7 回	授業内容	美的形式原理	質問を通して美的形式原理が理解できたか	
	学習成果	服装が美しく見えるテクニックについて理解し、説明できる。		
	予習復習の 内 容	原理の 5 つのパターンについて、理解し、コーディネートできるようにすること。		
8 回	授業内容	点と線のデザイン	質問を通して点と線のデザインを理解できたか	
	学習成果	ファッションデザインにおける点と線を利用したデザインの種類と見え方の違いについて理解する。		
	予習復習の 内 容	点と線のデザインについて理解し、コーディネートの問題解決ができるようにすること。		
9 回	授業内容	シルエットとディテール	小テスト（デザインの種類と名称について）	
	学習成果	服装全体のシルエットの種類と細かなディテール部分のデザインの種類を知り、説明できる。		
	予習復習の 内 容	シルエットとディテールの違いとデザインの種類を理解し、説明できるようにしておくこと。		
10回	授業内容	服種と用途	小テスト（デザインの種類と名称について）	
	学習成果	フォーマルとカジュアルのデザインおよび TPO に合わせたデザインを知ることができる。		
	予習復習の 内 容	TPO に合わせた服装を理解し、説明できるようにしておくこと。		
11回	授業内容	アクセサリー	小テスト（デザインの種類と名称について）	
	学習成果	ネックレス、帽子、靴や宝石など、デザインの種類を理解し、説明できる。		
	予習復習の 内 容	アクセサリーのデザインの種類を理解し、コーディネートできるようにすること。		
12回	授業内容	素材の効果性	筆記試験（全15回分の内容を問う）第15回目を実施	
	学習成果	柄やテキスタイルによる見え方の違いについて理解し、説明できる。		
	予習復習の 内 容	テキスタイルについて理解し、説明できるようにしておくこと。		
13回	授業内容	色彩の役割		
	学習成果	色の基礎、感情、配色、流行色について理解し、説明できる。		
	予習復習の 内 容	色彩の原理について理解し、配色を利用してコーディネートできるようにすること。		
14回	授業内容	体型とタイプ		
	学習成果	人間の体型の種類、人格のタイプ、コーディネートのタイプについて理解し、コーディネートできる。		
	予習復習の 内 容	人と服の着装、スタイルについて理解し、コーディネートできるようにすること。		
15回	授業内容	服飾デザインにおける演習・まとめ		
	学習成果	全15回のまとめと筆記試験を行い、ファッションデザインの知識を習得しコーディネートできる。		
	予習復習の 内 容	この授業の内容全体について整理・確認しておくこと。		

科目名		簿記検定 I				担当者		ナガノアツシ 永野 篤					
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	1・2年	開講期	前期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー、nagano.atsushi@seiwa.ac.jp または Classroom を通じて。											
専門的 学習成果	①	小規模株式会社を前提とした簿記の構成要素や決算までの流れについて説明することができる。											
	②	仕訳による基本的な処理、簿記の基本用語や複式簿記の仕組みを説明することができる。											
	③	日商簿記 3 級程度の仕訳や帳簿記入に応用することができる。											
汎用的 学習成果	(1)	日商簿記 3 級程度の実力を発揮し、地域社会の発展に貢献することができる。(専門学習成果①～③に関連)											
授業概要		簿記は、日々の企業のお金の出入りや取引を記録し、一定の期間ごとに決算を行い、報告書にまとめる作業のことである。直接実務に関わらないビジネス・パーソンにおいても簿記は身に付けておきたい知識である。 本講義では、簿記について基礎的な用語や技術、取引の仕訳から勘定記入、決算手続きまでの一連の流れを学習することにより、日商簿記検定 3 級程度の知識を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		小テスト	70	学習した仕訳等を中心に 7 回実施、各10% ずつ正解率に沿って評価を行う。									
		平常点	30	授業、演習への意欲、取り組み、態度により評価する。									
	汎用的 学習成果	小テストで分野ごとの学習成果を評価する。 (1) は専門的学習成果①②③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
	CPA 会計学院		『いちばんわかる日商簿記 3 級の問題集』						サンクチュアリ出版				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等				①簿記は知識だけではなく、多くの問題を解くことで身につけることができる。そのため、事前にテキストを読んでおくこと。また、毎回 2 時間程度、テキスト内容を予習復習しておくこと。授業には、テキストに加え電卓を持参すること（12桁以上のものが望ましい）。普段から電卓の操作に慣れておくこと。 ②小テストは添削の上、次回授業で返却する。									

授業計画			学習成果の評価	
1 回	授業内容	授業の概要、成績評価について、簿記の基礎	小テスト 〔簿記の基礎〕「商品売買」「現金」 第 2 回に実施	
	学習成果	授業の目的と資格取得の意義、簿記について理解する。		
	予習復習 の 内 容	基本的な用語について確認する。		
2 回	授業内容	商品売買 現金		
	学習成果	商品売買や現金を扱った際の仕訳ができる。		
	予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
3 回	授業内容	普通預金、定期預金、当座預金、当座借越 小口現金	小テスト 〔普通預金、定期預金、当座預金、当座借り越し〕「小口現金」「手形と記録債権（債務）」 第 4 回に実施	
	学習成果	預金や小口現金を扱った際の仕訳ができる。		
	予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
4 回	授業内容	手形と記録債権（債務）貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金		
	学習成果	手形や債券、貸付借入を行った際の仕訳ができる。		
	予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
5 回	授業内容	その他の債権債務 その他の費用	小テスト 〔その他の債権債務〕「その他の費用」「貸し倒れと貸倒引当金」「有形固定資産と減価償却」 第 6 回に実施	
	学習成果	仮払いや消耗品購入などを行った際の仕訳ができる。		
	予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
6 回	授業内容	貸倒れと貸倒引当金 有形固定資産と減価償却		
	学習成果	貸倒れとそれに伴う処理、固定資産や原価償却について仕訳ができる。		
	予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
7 回	授業内容	株式の発行、剰余金の配当と処分 法人税等と消費税	小テスト 〔株式の発行、剰余金の配当と処分〕「法人税等と消費税」「費用・収益の前払い・前受と未払い・未収、訂正仕訳」 第 8 回に実施	
	学習成果	株式発行や配当、税金を扱った際の仕訳ができる。		
	予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
8 回	授業内容	費用・収益の前払い・前受けと未払い・未収、訂正仕訳		
	学習成果	前払い、前受け、未払い、未収の仕訳、訂正仕訳ができる。		
	予習復習 の 内 容	扱った勘定科目がどの要素に入るのか確認する。		
9 回	授業内容	帳簿への記入 試算表	小テスト 〔帳簿への記入〕「試算表」「伝票と仕訳日計表、証ひょう」 第10回に実施	
	学習成果	各種帳簿への記入、試算表の作成ができる。		
	予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
10回	授業内容	伝票と仕訳日計表、証ひょう		
	学習成果	仕訳日計表の作成と総勘定元帳への転記、証ひょうからの記帳ができる。		
	予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
11回	授業内容	精算表と財務諸表①決算整理	小テスト 〔精算表と財務諸表〕「帳簿の締め切り」 第13回に実施	
	学習成果	決算手続きについて理解し、決算整理ができる。		
	予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
12回	授業内容	精算表と財務諸表②当期純利益または登記純損失の計上、財務諸表		
	学習成果	当期純利益または登記純損失の計上ができ、財務諸表を作成できる。		
	予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
13回	授業内容	帳簿の締め切り		
	学習成果	帳簿を締め切ることができる。		
	予習復習 の 内 容	用語について確認する。		
14回	授業内容	チェックテスト	小テスト (チェックテスト) 第15回に実施	
	学習成果	日商簿記 3 級と同様の内容について、総合的に理解する。		
	予習復習 の 内 容	わからなかった部分は解きなおす。		
15回	授業内容	チェックテスト		
	学習成果	チェックテストを確実に解答することができる。		
	予習復習 の 内 容	わからなかった部分はしっかりと理解する。		

科目名		マーケティング入門				担当者		ナガノ 永 野 篤				
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	講義	学年	1 年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー、電子メール・電話での連絡方法については初回時 Classroom を通じて知らせる。										
専門的 学習成果	①	マーケティングの基本概念の理解：4 P、4 C、STP などのマーケティング理論を説明できる。										
	②	消費者行動の分析力の習得：消費者の購買意思決定プロセスを理解し、行動を分析できる。										
	③	市場調査とデータ分析の基礎スキルの習得：アンケートやインタビューの手法を学び、データを活用した意思決定ができる。										
	④	サービスマーケティングの応用力の育成：サービスの特性や顧客体験（CX）を考慮した戦略を設計できる。										
	⑤	教育サービスの設計と提案能力の向上：学生を顧客と捉えた教育サービスを設計・提案できる。										
汎用的 学習成果	(1)	論理的思考力の養成：論理的にマーケティング戦略を構築し、提案する能力を育む。（専門的学習効果①②③④⑤に関連）										
	(2)	チームでの協働スキルの向上：グループワークを通じて、他者と協力しながら課題を解決する力を養う。（専門的学習効果①④⑤に関連）										
	(3)	プレゼンテーション能力の向上：自分の意見や提案を的確に表現し、他者に伝えるスキルを向上させる。（専門的学習効果⑤に関連）										
授業概要		この科目では、マーケティングの基本概念から応用までを学び、特にサービスマーケティングの視点を取り入れ、学生自身が享受している“教育”をサービスとして捉える考え方を探求します。学生はマーケティング理論（4 P、4 C、STP など）を理解し、顧客体験（CX）やブランド戦略、プロモーション手法について学びます。また、サービスマーケティングの応用として、学生自身が教育サービスを設計・提案するワークショップを実施し、実践的なスキルを養います。本授業を通じて、マーケティング理論の理解だけでなく、問題解決能力やコミュニケーションスキルを身につけることを目指します。										
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	20	課題に対するレポートを作成する。〔2 回、各1500文字〕								
		小レポート	15	毎回小レポートを実施し、理解度を確認する。								
		小テスト	30	小テストを実施、理解度を確認する。〔3 回〕								
		発表	20	課題に対する内容検討・成果物の妥当性・プレゼンテーションにより評価する。								
		平常点	15	授業への協力的・協調的・積極的な貢献によって評価する。								
	汎用的 学習成果	(1) は専門的学習成果①②③④⑤で評価を行う。 (2) は専門的学習成果①④⑤で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	フィリップ・コトラー		『コトラーのマーケティング5.0 デジタル・テクノロジー時代の革新戦略』						朝日新聞出版			
	フィリップ・コトラー		『コトラーのマーケティング・マネジメント - ミレニアム版』						ピアソン・エデュケーション			
	クリストファー ラブ ロック、ローレン ライト 他		『サービス・マーケティング原理』						白桃書房			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①現代社会はあらゆる物質・サービスが“販売”の対象となっていると言っても過言ではない。そのような社会においてマーケティングの影響は皆さん方の身近に溢れています。日常の出来事やニュースなどを積極的にマーケティングの現実に触れる機会と捉え情報収集とその精査を日常化することができるよう努めて下さい。 ②マーケティングは何よりも「現実」として何が起きているのかを観察し洞察することが大切です。事前学習として参考資料等を読み、日常的なニュースにも関心をもち知識の範囲を広め洞察を深めてください。（予習：週1 時間程度）事後学習としては、指定された範囲の課題に取り組むこと。（復習：週3 時間程度）。提出されたレポートは全体的な講評を行い評価します。										

授業計画			学習成果の評価	
1 回	授業内容	オリエンテーションとマーケティングの概要：マーケティングとは何か、歴史と基本的な役割を学ぶ。	小レポート①	
	学習成果	マーケティングの定義と重要性について認識することができる。		
	予習復習 の 内 容	マーケティングの歴史の変遷について調査する。		
2 回	授業内容	マーケティングの基本概念（4 P と 4 C）：内容：製品（Product）、価格（Price）、場所（Place）、プロモーション（Promotion）と 4 C（顧客視点）の説明。	小レポート②	
	学習成果	4 P と 4 C の違いを理解し、具体例を挙げられるようになる。		
3 回	予習復習 の 内 容	ニーズとウォンツの実例を調べ、その違いについて検討する。	小レポート③	
	授業内容	消費者行動と購買プロセス：消費者が購入に至るプロセスを学び、購買意思決定の流れを理解する。		
	学習成果	消費者行動を分析する基本スキルを習得し具体例が挙げられるようになる。		
4 回	予習復習 の 内 容	自らがどのように商品・サービスを購入するかの過程を分析する。	小レポート④	
	授業内容	市場調査とデータ分析の基礎内容：アンケート調査やインタビュー、データ分析の手法を学ぶ。		
	学習成果	市場調査の基本手順を説明できるようになる。		
5 回	予習復習 の 内 容	質的、量的調査の違いについて調べる。	小レポート⑤ 小テスト①	
	授業内容	ターゲティングとセグメンテーション：セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング（STP）の概念と実践。		
	学習成果	効果的なターゲティング方法を理解し、適切な手法について認識できるようになる。		
6 回	予習復習 の 内 容	特定の商品についての STP について調査する。	小レポート⑥ レポート①	
	授業内容	ブランドとブランド戦略：ブランドの価値、イメージ形成の方法を学ぶ。		
	学習成果	ブランド戦略の基本を理解し、具体例を挙げられるようになる。		
7 回	予習復習 の 内 容	ブランドと消費者行動の実例について調査する。	小レポート⑦	
	授業内容	プロモーション戦略：広告、販売促進、PR、ダイレクトマーケティングの活用法。		
	学習成果	さまざまなプロモーション戦略を比較し、適切に選ぶための観点到留意することができる。		
8 回	予習復習 の 内 容	効果的なプロモーションのモデルについて検討する。	小レポート⑧	
	授業内容	デジタルマーケティングの基礎：SNS マーケティング、SEO、コンテンツマーケティングの基礎を学ぶ。 • 内容：SNS マーケティング、SEO、コンテンツマーケティングの基礎を学ぶ。		
	学習成果	デジタルマーケティングの基本ツールの有効性について認識できる。		
9 回	予習復習 の 内 容	WEB を通じたマーケティングの実例に触れる機会を増やす。	小レポート⑨	
	授業内容	ソーシャルマーケティングと倫理：社会的課題を解決するマーケティングの役割とその倫理的側面。		
	学習成果	倫理的なマーケティング活動の重要性を理解し、自らの見解を述べることができる。		
10回	予習復習 の 内 容	SNS の実際について触れ、その影響と倫理性について調査する。	小レポート⑩ 小テスト②	
	授業内容	サービスマーケティングの基本：サービスマーケティングの特徴（無形性、同時性、変動性、消滅性）を学ぶ。		
	学習成果	サービスマーケティングの基礎を理解し、製品マーケティングとの違いを説明できるようになる。		
11回	予習復習 の 内 容	サービス業における自らの経験について振り返り検討する。	小レポート⑪	
	授業内容	顧客体験（CX）の重要性：サービスにおける顧客体験（CX: Customer Experience）のデザインと事例。		
	学習成果	優れた顧客体験がサービス成功に与える影響について説明できる。		
12回	予習復習 の 内 容	顧客体験の実例について調査する。	小レポート⑫ レポート②	
	授業内容	教育をサービスとして考える：学生を顧客と捉えた教育サービスの設計について学ぶ。		
	学習成果	教育におけるマーケティングの応用方法を理解し、その必要性について説明できる。		
13回	予習復習 の 内 容	教育の個人に対する影響について調査する。	小レポート⑬ 小テスト③	
	授業内容	学生による教育サービスの提案ワークショップ：グループで教育サービスを設計し、ターゲットやサービス内容をまとめる。		
	学習成果	学んだ知識をもとに、自分たちで教育プランを作成できるようになる。		
14回	予習復習 の 内 容	すぐれた教育方法と顧客体験を調査・比較する。	小レポート⑭ プレゼンテーション①	
	授業内容	教育サービス提案のプレゼンテーション：各グループが提案した教育サービスをプレゼンテーションし、フィードバックを受ける。		
	学習成果	提案内容を効果的に伝える力を養い、他者からの意見を活用することの意義について検討することができる。		
15回	予習復習 の 内 容	サービスマーケティングを教育に活かす手法について検討する。	小レポート⑮	
	授業内容	授業の総括とフィードバック：授業全体の振り返りを行い、マーケティングとサービスの本質についてディスカッション。		
	学習成果	マーケティングとその周辺領域について学んだ知識を振り返り、今後の学びと実践に活用できるようになる。		
	予習復習 の 内 容	日常にあるマーケティングの実例につい観察・検討する。		